**臨床研究者養成（MCR）コース限定科目等受講申請　承諾書**

**(1) MCRコース受講生が受講する科目について**

令和6年度は以下の科目を開講します。必修科目についてはMCRコース受講に際して全科目の受講が義務付けられます。

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 区分 | MCR限定 | 科目名 | 期間 | 時限 | 単位数 |
| 必  修 | 限定 | 臨床研究計画法Ⅰ | 前期 | 月5 | 1 |
|  | 文献評価法 | 月4 | 1 |
|  | 医療統計学 | 火2 | 2 |
| 限定 | 医療技術の経済評価 | 水3 | 1 |
|  | 臨床試験 | 水5 | 2 |
| 限定 | 臨床研究計画法演習I | 木4 | 1 |
|  | 疫学II（研究デザイン） | 金1・2 | 1 |
|  | 疫学I（疫学入門） | 金3・4 | 1 |
| 限定 | 臨床研究計画法II | 後期 | 月5 | 1 |
| 選  択 | 限定 | データ解析法特論 | 前期 | 月6 | (1) |
| 限定 | 社会疫学研究法 | 前期集中 | 火1 | (1) |
| 限定 | 系統的レビュー | 後期 | 月2 | (1) |
| 限定 | 臨床研究計画法演習II | 月4 | (1) |
| 限定 | 臨床研究特論 | 月6 | (2) |
| 限定 | 社会疫学研究法 | 火1 | (1) |
| 限定 | 臨床研究データ管理学 | 金1 | (1) |
| 限定 | EBM・診療ガイドライン特論 | 金3 | (1) |
|  |  |  | 単位合計 | | 11 (19) |

限定はMCR限定科目を指し、MCR参加者以外の院生は受講できない科目です。

**(2) MCRコース教育協力金について**

MCRコースは2005年に設置されましたが、設置以来専任の教員定員がないため、運営交付金がほとんどなく、運営経費が逼迫している状況が続いております。そのため、以前より、受講生のご所属される講座から、教育協力金\*という名目でお一人当たり年間5万円をいただいてまいりました。

この教育協力金は年報印刷費や備品や消耗品などの経費を各医局・所属分野からお支払していただく形をとっております。協力金をご負担いただく方法としましては、MCRコースで使用した物品の請求書（5万円分）をお回しいたしますので、その分のお支払いをお願いする形式をとっております。経理担当窓口はMCRコースの経理担当秘書が担当しております。具体的なご負担方法の詳細は、追って経理担当秘書より連絡いたします。

なお、本学臨床系教室（分野）に在籍する大学院生は、MCRコースに参加している社会健康医学系専攻教室（分野）に指導委託をされていることが必須となります。このため、本学臨床系教室所属の大学院生の場合は在籍する分野の教授の署名、および指導委託先の教授の署名のいずれもお願いいたします。

＊教育協力金につきましてご不明な点がございましたら、MCRコース事務局（contact@mcr.med.kyoto-u.ac.jp）もしくは経理担当秘書（内線：9469）までお尋ねください。

**【教授記入欄】**

令和 \_\_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_\_ 日

臨床研究者養成コース運営委員長　川上　浩司　殿

当分野に在籍する \_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_ 氏が令和6年度にMCRコースを受講することを承諾いたします。上記の記載内容に従い、氏が上記のMCRコース限定科目を含むMCRコース必修科目の全科目を受講すること、並びに当分野がMCR教育協力金を負担することを承諾いたします。

|  |
| --- |
| 【指導教授名】  所属 \_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_  署名　\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_ 印 |

**＜本学臨床系教室に所属する大学院生の場合、以下を指導受入教授が記載＞**

上記の記載内容に従い、\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_ 氏を当分野で指導することを受諾いたします。

|  |
| --- |
| 【指導受入教授】  令和 \_\_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_\_ 日  所属　\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_  署名　\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_ 印 |

**(3) MCR限定科目の概要**

### 臨床研究計画法I, II（必修）　（担当 川上教授（責）、MCR教員全員）

平成26年度までの通称「プロマネ（研究プロトコール作成マネジメント法）」でありMCRのハイライト科目です。臨床研究は、教科書や授業からえら得た知識からのみではできず、研究の計画・運営には実践的なノウハウや経験が必要であります。当科目は、臨床研究を実際に計画・運営する際に必要な知識・技能を習得することを目的としています。

* 講義：教員が行ってきた臨床研究を素材として、プロトコールを作成し、研究を運営する上で必要な具体的手法やこつを学びます。教員やMCR修了者による研究体験談も交えて、研究を行った動機、今だったら行う統計解析法、投稿先の選び方、論文査読者からの注文など、論文採択までの苦労話も紹介します。それらを追体験し、学生自身が行う研究に反映させることを狙っています。
* プロトコール発表検討会：MCRコースの中でも、ハイライトとも呼ぶべきセッションです。毎回、MCR教員と院生の全員の参加を原則とし、院生発案によるリサーチ・クエスチョン（RQ）や臨床研究プロトコールについて、相互に形成的な検討、評価、フィードバックすることを通じて研究計画の質や実施可能性を向上することを目的としています。

### 臨床研究計画法演習I（必修）, II（選択） （担当 山本教授）

臨床研究計画法演習は、「臨床研究計画法」内のプロトコール発表検討会の前に実施され、いわば予行練習の位置付けです。演習では院生同士の議論を中心とし、各院生のプレゼンテーションの能力や研究計画を評価する能力の向上を目的としています。

### 文献評価法（必修） （担当 中山教授）

EBMや疫学の基礎知識を学びながら、社会健康医学の学習・研究を進める基礎として、研究論文の系統的な評価法（critical appraisal）の習得を目的とします。

### 医療統計学（必修） （担当 佐藤教授（予定））

医療統計学は社会健康医学の実務・研究に必須であることは広く認識されています。ただし、数式はとっつきにくく、一部の数学好き以外には敬遠されています。

しかし、しかしです。本当は医療統計学っておもしろいのです。「医療統計学はおもしろい」ということをみんなに伝えたいと、医療統計学では、数学的、技術的な問題に立ち入ることなく、平易なことばで医療統計学の考え方を解説しています。

### 医療技術の経済評価（必修）　（担当 今中教授）

医療における経済評価を支える理論・フレームワークについての講義を行い、臨床医療の経済性評価のための主な研究手法を学習します。医療の経済評価は、通常、現実的な制約の中で評価をすることになりますが、その際の研究のあり方についても学習します。臨床的な事例・テーマを中心に検討を行います。

医療のプロセス、アウトカム等の質指標、診療のばらつき、医療の質の評価・改善、医療機能評価、医療の質・安全に係わる制度・政策については、水曜3限「医療の質評価」(前期)で扱います。

### 臨床試験（必修） （担当 田中教授）

エビデンスを作るためには臨床試験を実施し、その結果を解析して評価しなければなりません。本コースでは実際に臨床試験を行うためには何が必要で、どのような準備を行ない、どう実践するかを理解します。

実際に行なわれた臨床試験を例に取り、どのような問題点が生じ、それをどのように解決したかについても学びます。国内での医師主導型臨床研究を運営支援した実績のある外部講師に、これまで実施してきた臨床研究の実際と今後の改善点についても講義してもらいます。

コースワークとして仮想的臨床試験のプロトコールドラフト作成を小グループで行う予定です。

### 疫学Ⅰ（疫学入門）（必修）　（担当 中山教授）

臨床研究を含む社会健康医学（パブリックヘルス）領域において、最も基本となる疫学の考え方、方法論について系統的な講義を行います。

### 疫学Ⅱ（研究デザイン）（必修）　（担当 山本教授）

量的研究を行う人全てに必要な研究デザインを学びます。特に、社会健康医学領域の研究（実験的研究を除く）を行なう際の基本的な手順・スキルを学びます。また、研究の概念モデルを構成する測定概念を変数に変換する作業、変数測定法の信頼性と妥当性の検討についても学びます。

### 系統的レビュー（選択）　（担当 小川准教授）

集中講義と演習により、各参加者が興味を持つテーマについて系統的レビューのプロトコールを英文で完成する。講義以外に自らプロトコールを洗練させるための自習時間がかなり必要になるので注意されたい。MCR 限定推奨なので、実際にこのカリキュラムで系統的レビューのプロトコールを完成させたい人がぜひ選択していただきたい。希望者については最終的に系統的レビューを完成させるまで指導する。

### EBM・診療ガイドライン特論（選択）　（担当 中山教授）

近年、EBMを用いた診療ガイドラインが多くの疾患で作成されています。本コースではEBMの視点から診療ガイドライン作成の方法論（GRADE法、USPSTF法等）、評価法（AGREE法）、法的位置づけ、患者の視点の反映、コミュニケーションの基点としての役割、経済的情報の考慮、エビデンス診療ギャップ、クリニカルパスへの連携などの問題を取り上げます。

診療ガイドラインを使うだけでなく、近い将来、診療ガイドラインの作成にチャレンジしたい方々の聴講を待っています。

### 臨床研究データ管理学（選択）　（担当 中尾准教授）

臨床研究データは、多くの研究に共通の部分と、研究ごとの多様性や、新しい分野の研究においてどのようなデータ構造でデータを管理するか工夫が必要な部分があります。項目数が少なく症例数が多い研究もあれば、ゲノムの研究のように症例数は少ないが項目数が膨大な研究もあります。このような臨床研究の特殊性に合わせたデータマネジメントとデータ保管の方法について学びます。加えて、質的研究のデータ特性や、そのデータ管理の方法についても学びます。

### 臨床研究特論（選択）　（担当 石見教授）

臨床研究計画法I・IIで履修した研究方法について掘り下げ、学生から疑問点を提示し、教員と学生がいっしょに検討します。さらに、教員から研究方法上の問題点を提示し、学生が検討していきます。これによって、各種研究方法について、その背景や考え方、利用の仕方や限界などについて研究事例に照らして深く理解することを目的とします。

### 社会疫学研究法（選択）　（担当 近藤教授）

この講義では、社会疫学研究の主なテーマやその研究の動向を紹介します。また社会疫学で汎用する因果推論技法や統計分析手法を紹介します。特に臨床とかかわりが深いテーマについては重点的に扱います。たとえば社会的処方や地域包括ケア、生活困窮者の健康管理支援等です。この講義の目標は社会疫学の視座を理解すること、臨床にかかわる研究テーマ案を提示できること、社会疫学で良く用いる因果推論と統計分析の手法の基礎的理解を得ることです。

### データ解析法特論（選択）　（担当 山本教授）

この講義では、統計解析ソフトウェアStataを用いて臨床研究のデータ解析を行います。この講義の目標は①統計解析ソフトを用いて基礎的な臨床研究データの解析ができる、②解析ソフトの出力結果を正確に解釈することです。実習の教材として用いる臨床研究データは、臨床研究の実例のデータを可能な限り用います。学習の習熟度の確認のために、学習課題を課しています。開講期間中は講習会コードを提供し、無償でStataの試用が可能予定です。